

生きる喜びを
Let's create Iwate as a place to live happily.
感じられる岩手に！

いわて
県政
レポート
2026
夏号

岩手県議会議員

ハクセル 美穂子

MIHOKO
HUXEL

ハクセル美穂子プロフィール

昭和50年3月6日 雫石町生まれ
◎家族／アメリカ人の夫、4人の息子(大1、高3、高2、中2)
◎職業／英会話教室経営
◎趣味／読書、フラワーアレンジメント、散歩、博物館めぐり
◎学歴／雫石町立御明神小学校[S62卒]・雫石町立雫石中学校[H2卒]・盛岡第四高等学校[H5卒]・岩手大学農学部[H9卒]
◎経歴／平成9年 雫石町役場入庁
平成17年 夫とともにアメリカへ移る
平成18年 (株)Shady Grove Intl設立 代表取締役就任
平成27年 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区初当選
令和元年9月 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区2期目の当選
令和5年9月 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区3期目の当選

f ハクセル美穂子
オフィシャルFacebook
<https://www.facebook.com/mihokopage/>



お知らせ

7月もハクセル美穂子
「車座座談会」
を開催します！

テーマは決めず、毎日の暮らしのことや地域のこれからについて、気軽にお話する会です。日ごろ感じていることやお困りごと等、ざっくばらんに聞かせてください。

7月13日⑤ 御所公民館 午後7時～

7月15日③ 雫石公民館 午後7時～

7月14日④ 西山公民館 午後7時～

7月16日⑥ 御明神公民館 午後7時～

自治会・行政区ごとのミニ車座座談会も、随時開催しています。
皆さまの地域で開催をご希望の場合は、DM、FAX、お電話、ホームページ等でお気軽にお問合せください。より良い地域づくりのために、いろいろな意見を交換しましょう！

2026.1月20～22日 商工建設委員会県外調査

2026.1月28～30日 議会運営委員会県外調査

2026.2月14～18日 車座座談会

2026.2月13日～2月23日 2月定例会・予算特別委員会

令和8年度岩手県一般会計予算は附帯意見を付けて可決されました。予算可決の際に県議会からの考えを伝えることができる【附帯意見】について、裏面アセンブリーニュースでお伝えします！

2026.4月7日 雫石町立西山小学校・雫石中学校入学式

2026.4月8日 岩手県立雫石高等学校入学式

2026.4月14～18日 商工建設委員会調査、
四特別委員会調査、県政調査会

2026.5月10日 岩手山麓ファミリーマラソン

40年ぶりに岩手山麓ファミリーマラソンに参加し、3kmを完走しました！

素晴らしい大会でした。参加者、関係者の皆さまに感謝！



四男と共に完走しました!!

2026.5月20～21日 商工建設委員会東北調査

秋田県大館市で進められている【インランドデポ】の取り組みや、男鹿市の【山人-Oga-】における観光振興の取り組みなどを調査しました。

インランドデポとは、内陸部に設けられた通関拠点です。通常は港で行う輸出入貨物の通関手続きを、内陸部で行うことができる施設で、農産物などの輸出拡大が進む中、注目されている取り組みです。岩手県でも、釜石港や大船渡港の有効活用に向けて導入を検討すべきとの意見があります。

株式会社山人は、岩手県西和賀町にある温泉宿「山人-yamado-」と、秋田県男鹿市のリゾートホテル「山人-Oga-」を拠点に、地域の自然・食・文化を体感できるリトリート事業を展開しています。リトリートとは、自分自身にとって大切なものに意識を向け、ゆったりとした時間を過ごす滞在スタイルです。岩手県の強みを活かすことができる分野として注目されています。



大館駅インランドデポにて

2026.5月23日 西山小学校運動会・にしやま大運動会

2026.5月25日 岩手県政150周年記念式典

2026.6月1日 駒ヶ岳山開き

駒ヶ岳山開きでは、毎年6月1日に山頂で雫石町と仙北市の記念登山者がピッケル交換を行います。今年は私も初めて国見登山口から登頂し、ピッケル交換に参加することができました。駒ヶ岳は、日本屈指の高山植物の宝庫として有名な山ですが、当日もその名のとおり、きれいな花々が咲き誇り、登山者を楽しませてくれました。ぜひ、皆さまも登ってみてください！



男岳山頂にて参加者の皆さんと

令和8年度予算可決－附帯意見のポイントを解説します

岩手県議会2月定例会の会期中、予算特別委員会において令和8年度当初予算案の審査が行われました。提出された各会計予算案はいずれも可決されましたが、一般会計予算については、県政運営上とくに重視すべき事項を附帯意見として付した上での可決となりました。今回は、予算特別委員会の仕組みと附帯意見の主なポイントをご報告します。

令和8年4月から執行されている岩手県の予算は、昨年9月半ばから始まった編成作業を経て、2月定例会の予算特別委員会で審査された後、本会議で可決されたものです。



県予算は、まず各部局が総務部財政課の当初予算編成方針に基づいて必要額を要求し、その後、財政課による査定を経て歳入歳出の均衡を図り、知事が議会に

提案します。

岩手県議会では、48名の全議員を委員とする予算特別委員会を設置し、およそ2週間にわたり、知事提出の予算案を審査します。

他県では常任委員会ごとに分かれて審査を行う例もありますが、岩手県議会では全議員に等しく発言の機会が与えられており、幅広い視点から活発な議論が行われています。

こうした審査を経て、議会としての意見を取りまとめた結果、令和8年度一般会計予算は、県政運営に当たり特に重視すべき事項を「附帯意見」として付して可決されました。

附帯意見の主な内容は、次のとおりです。

- ①若者・女性の県内定着に向けた雇用・子育て支援
- ②医療人材確保と県立病院経営改善
- ③市町村との広域連携強化
- ④物価高騰対策の迅速な実施
- ⑤不登校児童生徒への学習支援
- ⑥職員不祥事防止とコンプライアンス強化

今後とも、県政課題の解決と人口減少への対応を着実に進め、岩手の未来を次世代へ確かなにつないでいくため、全力で取り組んでまいります。



岩手県議会だより198号で附帯意見の全文を見ることができます。

2026夏号コラム COLUMN

若者・女性に選ばれる岩手を目指して!

若者・女性に選ばれる地域とは?

私が県議会議員に初当選してから、今年で11年目になります。11年前の2015年ごろは、元岩手県知事の増田寛也氏が座長を務めた日本創成会議の報告書、いわゆる「増田レポート」が大きな話題になっていました。この報告書では、2040年にかけて20代から30代の若い女性の数が半分に減るおそれがある自治体を「消滅可能性都市」とし、全国の896市区町村がその消滅可能性都市に当てはまるとされました。この指摘は全国に大きな衝撃を与え、人口減少や少子化への対策を本格的に考えるきっかけとなりました。

報告書発表から12年がたった2026年の今も、地方から東京圏へ若い世代が移る流れは止まっています。少子化が進む中でもなお、人口流出が加速し、東京圏への一極集中は続いています。そして、岩手県も例外ではありません。

内閣府等の調査資料を見ると、三大都市圏を除く地域では、15歳から24歳の若者の多くが地域外へ出ていく傾向があります。特に女性は20代になってもその傾向が続き、男性よりも地元に戻りにくいことが指摘されています。進学や就職で地元を離れた若い女性が戻ってこないということで、地域の活力が失われるというだけでなく、少子化が進む大きな理由の一つでもあると考えられています。

岩手で暮らす私たちは、この現実をしっかり受け止め、若者や女性に「ここで暮らしたい」「ここで働きたい」と思ってもらえる地域づくりに、本気で取り組む必要があります。

では、若者や女性に選ばれるようになった地域では、実際にどのような取組が進められているのでしょうか。

その先進的な事例の一つが、兵庫県豊岡市の取組みです。



豊岡市は2015年の国勢調査の結果から「若い女性たちが、まちからすっとなくなっていく」という状況に気がつき、強い危機感を持って若者や女性に選ばれる地域づくりに本格的に取り組み始めました。

豊岡市は、10代で地域を離れた人に対して、20代でどれだけ人が戻ってきているかを「若者回復率」と定義し、若年人口の動きを調べました。その結果、男性の若者回復率は上がっている一方で、女性は低いままであることがわかったのです。そして、豊岡市が若い女性に選ばれにくい背景には、働き方や地域の中にある固定観念、無意識の思い込み、いわゆるジェンダーギャップがあるのではないかと考え、このことについてさらに詳しく調べることにしました。

豊岡市は、転出した女性や地域の人たちへの聞き取り調査を行い、市独自のデータを集め分析を重ね、最終的に「若者や女性に選ばれる地域づくり」を市政の最重要課題と位置づけました。そして、この課題解決のために、ワークイノベーション推進会議を設立し、性別による役割分担の思い込みや無意識の偏見に気づくための取組を始めました。経営者向けの意識改革や、管理職・人事担当者向けの研修を実施し続けた結果、市役所や地域内企業の職場環境の改善や組織の雰囲気の見直しが進み、現在は、女性管理職が増えたり、Uターンによる採用につながったという好事例が出ています。

このような豊岡市の取組を学び、同じように若者・

女性に選ばれる地域づくりへの挑戦を始めた宮城県気仙沼市においても、若者・女性の流出やUターン率の低さ等の課題克服のために、官民が連携して「ジェンダーギャップ解消プロジェクト」を立ち上げ、誰もが働きやすく、やりがいを持てる職場づくりを地域全体で進めています。

首都圏へ移り住まなくても、自分らしく働ける仕事があり、やりがいを持って力を発揮できる。固定観念や無意識の偏見にしばられず、安心して暮らし続けられる。そんな地域であれば、若者や女性は地方での暮らしを前向きに選ぶことができます。そのためには、若い世代の考え方と、地域社会や職場に残る慣行とのずれに、私たち一人ひとりが気づき、少しずつ変えていくことが大切です。

若者・女性に選ばれるジェンダーギャップが解消された地域は、高齢者や子ども達にとってもギャップの少ない暮らしやすい地域となります。そして、若者・女性・高齢者・子どもが暮らしやすい地域は、働く世代の負担も少なくなり、労働生産世代の男性にとっても、自分を大切に暮らすことができる地域になるであろうことは想像に難くありません。

岩手には、豊かな自然、地域に根ざした産業、そして人と人とのつながりという大きな強みがあります。

今こそ、その強みを生かしながら、若者や女性に



ジェンダーギャップ解消で暮らしやすい岩手に!

選ばれる誰にとっても暮らしやすい岩手を目指して、一歩ずつ取組を進めていくときです。私はこれからずっと、その地に暮らすみんなが希望を持って学び、働き、未来を思い描ける地域づくりに力を尽くしてまいります。

